

学校名	新座小学校
実施日	令和5年1月18日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	学校は、タブレット等のICTを活用しながら、児童自らが考えを表現し、学びを深める授業を展開しようとしている。(ICTのナショナルスタンダードの確立)	A	・低学年のうちからクロームブックを積極的に活用し、特にロイロノートで自分の考えを表現し、友達の考えも共有するスタイルが確立している。 ・「タブレット端末を文房具のように」のとおり、児童に授業で使用させることが当たり前になってきている。 ・自力解決や考えを整理するため、など様々な活用の仕方を工夫している。	A	・授業参観をさせていただき、どの学年でもタブレット端末を工夫して活用していることがうかがえた。そのため、児童も意欲的に学習に取り組んでいた。 ・低学年でもタブレットを上手に使いこなしており、驚かされた。触る機会が増えるほど、慣れていくことができると感じた。
2	学校は、一人一人がかけがえない存在であることを理解させ、互いを認め合い、よさを生かした授業や学級経営を行っている。(よさを認め合い 可能性を拓く)	B	・先生方1人ひとりが児童のやる気を起こす言葉がけをしている ・係活動や委員会活動など、もっと子どもたちの個性を引き出せたら良いと考えている。 ・不登校の児童が増えている現実を考えると十分とは言えないと思う。 ・価値を大人から与えたり、教えるだけでなく、子どもたちが対話力を育み合うことを通して、生きる力を育む支援をしたい。	A	・地域には、様々な家庭の子供たちがいる。学校が子供たちにとって心地よい居場所になるとよい。 ・気にかかる子、支援が必要な児童について、情報共有がなされていて、学校には信頼がもてる。おかげで該当の家庭に適切な支援をすることができた。(民生委員として)
3	学校は、教職員、保護者、地域、行政と連携しながら、児童の健全な成長や円滑な学校運営のために、チームによる対応をしている。	A	・便りで連絡を伝え、個別の問題では、管理職への速やかな報告・連絡・相談を行い、電話対応、面談などで保護者と関わり、生徒指導部等により組織的問題解決を図っている。 ・どの教員も協力的である。 ・緊急に支援が必要な児童については、校長、特別支援コーディネーターを中心として、民生委員、市役所担当課と連携し、対応に当たっている。	A	・年々価値観が多様化しており、様々な問題に直面しているかと思うが、校内はもちろんのこと、関係機関とも連携し、よく対応していると感じる。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は、校務分掌や主任制を適切に機能させ、組織的な運営・責任体制を整備するとともに、働き方改革に取り組む	B	・各分掌の主任の負担が大きい。主任が分掌の全体の仕事をうまく各部員に割り当て、各部員が責任をもって提案できるとよい。 ・一部負担が多い先生がいるので、見直しが必要だと思う	B	・教職員の負担軽減、働き方改革のため、日課表や組織表など次年度の課題も明確になっているため、取り組んでいってほしい。
5	学校は、学校経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて改善計画を考え学校経営を行っている。	B	・職員会議等で、職員の意見も取り入れ柔軟に方針を具現化するために行っているように思われる。	B	・校長の指導の下、PDCAサイクルを回し、改善しながら取り組んでいる姿がうかがえる。
6	学校は、事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう、危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・2011年の震災を体験していない児童ばかりになり、一時期に比べて訓練の真剣さが格段に落ちたように感じる。消防署や警察に協力を要請するなど、児童が危機を実感するような訓練を行いたい。 ・マニュアルはあるが、実際に侵入者が入ってきたとき、その通りにはいかなかったため、もう一度全体確認をするべきだと思う。	B	・PTAによる防犯パトロールがない学校もあるが、犯罪の抑止になるため、保護者負担が大きいのであれば回数を減らすなどして継続してほしい。 ・すべての危機に対応するのは簡単なことではないが、有事に備えてほしい。 ・青パトを走らせるなどの取組を検討するとよい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、指導と評価の一体化を重視した授業を展開している。	B	・教科や時期によっては計画的に指導と評価の計画を立てているが、時間的な余裕がなくなると計画どおりいかないこともある。	B	・研修等を通して学校全体で協力し、児童に力をつけていこうという姿勢は素晴らしい。児童と教員との信頼関係が構築されているので、結果はすぐでないかもしれないが、今の努力を継続することを期待する。
8	学校は、各教科の指導において「見方・考え方を軸とした授業を展開し、資質・能力の三つの柱の育成に努めている。	B	・3つの柱をバランスよく指導できるように意識をしているものの十分とは言えない。 ・学びに向かう力、人間性の涵養についての育成も強化していきたい。	B	・新座小の児童は、中学校で伸びるという話を聞く。目先の数値にとらわれず、自信をもって指導していただきたい。
9	学校は、学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	・教科によっては参考にしてはいるが、すべての教科とはいかない。 ・学習指導要領に基づいて実態に応じた学習指導を行うよう努力している。 ・児童にとって学校生活の大半は授業である。児童にとって楽しい授業を展開していきたい。	B	・高学年の国語、算数における習熟度別少人数指導、AI型学習ソフトなど個に応じた指導を推進しており、素晴らしい。すぐに結果は出ないかもしれないが、努力して行ってほしい。
10	学校は、カリキュラムマネジメントを推進し society5.0を自在に生きる力を身に付けた児童生徒の育成に努めている。	B	・教師のICT機器の活用スキルや意欲に差があり、クラス間でもタブレット端末の使用頻度に違いがある。 ・ロイロノートの様々な活用法など、校内研修を充実し、教師のスキルアップ、活用意欲の向上を図りたい。	B	・これからの時代は、変化が激しく予測困難な時代であり、子供たちにとってICT機器の活用能力は必須である。先生方も新しい事柄を吸収していくことは大変かと思うが、取組の充実を図ってほしい。

評価項目「豊かな心の育成」

No.2

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつしたり、「です、ます」をつけるなど場に応じた言葉遣いを実践したりできるよう指導している。	A	・子供たちの元気な挨拶に課題があることを教職員が共有し、継続して励行し、指導してきた結果よくなってきている。 ・運営委員によるあいさつ運動や放送での結果を子供たちは励みにしており、よい取組となっている。 ・職員が範となるべく努力も必要だと感じることがある。	A	・子供たちから挨拶するだけが全てではない。大人である我々も自らあいさつし、子供たちのあいさつする姿勢を育む必要がある。 ・子供たちのあいさつがよくなってきている。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合っ学校生活を送れるような環境を整備している。	A	・いじめアンケートを毎月実施し、いじめと判断した案件については、継続して見守り指導することで解消につなげた。 ・何かあったとき、管理職や、特別支援教育コーディネーターの先生が話を聞いてくれたり、対応と一緒に考えたりして実践している。	A	・管理職への報告、連絡、相談がしっかりとなされており、校内で連携し、チームで対応に当たっている。いじめを苦に自ら命を断つ子供もいるので、特に配慮して取組を続けてほしい。
13	学校は、教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	A	・時間を守る、忘れ物をしない、締め切りまでに提出物を出すなど、継続して指導している。教職員自らも守れているかと、自省する必要がある。規律を守らせるだけでなく、子供たち同士で対話を通して作ることも大切にしたい。	A	・教育活動全体をとおして、指導されている。 ・規律を守らせるだけでなく、どうしてダメなのか児童自身に考えさせる必要もある。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・マラソンや縄跳び、外遊びなど、一緒に参加している教員が多い。 ・体育委員会を通じて様々な運動キャンペーンを企画し、実施している。	A	・新体力テストを活用し、学校や個々の児童の課題を明確にしている。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	A	・給食や食育にかかわる掲示の充実、毎日の給食時の放送など栄養教諭の先生を中心として行っている。 ・季節感を感じられる献立の工夫がなされている。	A	・食育への取組で今まで以上に給食を楽しみにしている子が増えたようである。中には給食が一日の食事の中心となっている子もいると思われる。継続して取り組んでいただきたい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	A	・学校に寄せられた意見、要望には、工夫改善しながら対応していると感じる。	A	・学校に何か情報入ると、校長先生を中心にすぐに対応している。そのため、信頼関係が構築され、好循環となっている。多くの子供たちが救われているように感じる。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	A	・校長ブログなど更新頻度が高く、最新の教育活動が保護者、地域に周知されている。 ・スクールメールでこまめに新型コロナウイルス感染者数や不審者情報、教育活動についての周知がなされており、円滑な学校運営ができています。	A	・コロナ禍で保護者や地域の住民が学校に足を運ぶことが少ない中、ホームページも充実し多くの情報発信をしているので、だいたいの様子が分かる。
18	学校は、コミュニティースクールと地域学校協働活動の一体的推進により、社会に開かれた教育課程の編成・実施を行っている。	B	・学習支援、花植えボランティアなど、多くの方々にご協力いただき、教育効果を高めている。保護者、地域の皆さんに支えられていることを日々実感している。 ・応援団活動については、まだまだ改善の余地はあると考えている。地域の教育力活用のため、情報発信、連携協力を図っていきたい。	A	・応援団もスクールメールに登録でき、学校との連絡が密となり、活動が活性化されている。応援団メンバーもやりがいを感じ、子供のためなら学校のためならと協力している。 ・夏の教育懇談会がコロナの影響でなくなり、残念だった。このような機会に先生方の生の声を聞かせてほしい。